いわての NPO・ボランティア活動情報誌

2025 vol.1

ぱいん

PIN

Paper Iwate NPO

NPOのはじめの一歩

「法人格を選ぶ」

- 連携事例集
  「NPO× 行政」「NPO×企業」
- 岩手県からのお知らせ
- 岩手県社会福祉協議会／ボランティア・市民活動センターからのお知らせ
- ユース世代に聴いてみよう

一般社団法人BlessUとNPO法人なないろの活動の様子

特集

start！

はじめの一歩！「法人格を選ぶ」

NPO法人と一般社団法人（非営利型）について、近年新規NPOの設立と活発な活動が見られる山田町から2団体を紹介し、法人設立までの経緯や地域への想いをお伝えします。

NPO？ 一般社団？ 県内の団体に経験を聞いてみました！！

生命をもっとも大切にすることを原点に、あらゆる人と人とが補い合える共生地域の創造を通じて、支援を必要とする人々（主として、ひとり親家庭の父または母、子ども、高齢者）が、自らの意思で主体的に活力ある生活を送ることができる社会の実現に寄与することを目的として設立された一般社団法人です。

一般社団法人 BlessU（ブレスユー）
中居 知子さん

子どもに対して、地域と共に居場所や成長の場を提供することで、郷土で愛され、郷土を愛する子どもを育てる。さらに、地域や関係機関と連携し、子どもの成長を包括的に支援することで、すべての子どもがその権利を保障され、心身ともに健やかに育つ地域社会を目指して設立された NPO 法人です。

NPO法人なないろ
髙橋 理奈さん

市民活動や非営利活動には様々な形があり、法人格を持つかどうかは団体の自由ですが、法人化の際にはNPO法人と一般社団法人（非営利型）で迷うことが多いようで、NPO活動交流センターにも時々相談が寄せられます。そこで、近年新規NPOの設立と活発な活動が見られる山田町の2団体にインタビューしてみました。

―簡単な自己紹介や設立趣旨などを教えて頂けますか？

一般社団法人BlessU（ブレスユー） 中居さん 2022年に法人設立の準備委員会をつくり、翌2023年に非営利型の一般社団法人として設立しました。私自身のシングルマザーの経験から、シングルマザーへの実践的なデジタルスキルの習得と業務機会を提供して、安定した収入を確保していくことサポートしています。

NPO法人なないろ 髙橋さん 任意団体として活動してきましたが、前職のスクールソーシャルワーカーを退職するタイミングで2025年4月にNPO法人にして、地域の就学前児童から高校生、また、学校に行きづらい子どもへの居場所や体験活動を、地域と共に提供する活動を行っています。

―中居さん髙橋さんともに、法人化の際には両方の可能性を考えながら、最後は自身で判断のポイントを決めて動き出しています。では、決め手は何だったのでしょうか？

中居さん 伴走してくださる企業にも話を聴いてもらいながら考えましたが、設立時の社員の必要最低人数も大きなポイントでした。一般社団法人でも非営利型の要件はしっかり整えましたし、最後は自分で決めて動く覚悟です。自分の判断軸をしっかり持つことは設立後にも活きてくると思います。

髙橋さん 団体としてやりたいことを考えた時に、一目で非営利団体だと伝わる方がいいと感じたこと、法人税が免除される部分もポイントになりました。社員10名以上を集めることは簡単ではなかったですが、やるぞ！と決めて声をかけはじめたら協力してもらえて、やはり自分の覚悟ですね。

動きだしてみると、仕事で関わる方も同時期にNPO法人設立に関わっていて、地域は別ですがお互いに手続きの進捗を確認したりして「NPO同期」として今も情報交換しています。近隣エリアの同分野で活動するNPO法人の方々も先輩として話を聞ける存在になってくれています。

―地域への想いやこれからの抱負など教えてください。

中居さん 今年4月、生活困窮や社会的孤立など同じ課題を抱えるシングルマザーと高齢者が交わりながら地域活性化を目指す拠点リタニティハウスを建設しました。その資金調達のひとつとして、2月にクラウドファンディングに挑戦したことで「頑張ってね」と町内で声をかけてもらうことが増えました。現在、ママたちのパソコン教室の間、子ども達の相手をするボランティアには中学生から70代まで幅広く地域の方が参加してくれています。地域の貴重な人材であるママたちが、この場所でキャリア形成のチャンスや選択肢を得られるようにしていきたいです。

髙橋さん この7月から元町立さくら幼稚園の建物を拠点に具体的な活動がスタートしました。3．11やコロナの影響で遊ぶ場所や機会が制限された子どもたちは、チャレンジと失敗どちらの経験も少なくなっていますが、居場所があることで色々な経験をして健やかにしなやかに生きていけるようになってほしいと思っています。法人化してから、地域の方からボランティアや寄付金など様々な協力の申し出や、若い世代からのボランティアへの問合せがあり、ありがたい限りです。当拠点では、子どもを中心に地域の様々な年代の交流や支えあいが自然にできる仕組みにしたいと思っています。

※ＮＰＯ法人にかかる税金や免税措置は要件があります。

それぞれの活動の詳細はＳＮＳやホームページでチェック！

NPO法人なないろ	一般社団法人BlessU	
Instagram	Facebook	HP
nanairo-npo-yamada@outlook.jp		

NPO活動交流センター こう使おう！

相談受け付けています！

NPO活動交流センターでは、市民活動における団体や法人運営に関する相談業務を行っています。

NPO法人と一般社団法人（非営利型）の違いや、法人格を選ぶ際の疑問についても具体的にお話できますのでぜひ気軽にセンターをご利用ください。

窓口、電話、メールどの形でも対応できます。

NPO活動交流センター
TEL：019-606-1760
MAIL：n-katsu@aiina.jp

岩手県 NPO 活動交流センター サイト→

連携事例集

Case study

地域課題の解決や社会貢献のための様々な活動について、NPO単独で行うのではなく、企業や行政と連携・協働することで新たな成果が生まれています。岩手県内のそんな事例をご紹介します。

事例1

遠野でしかできない体験を！

2024年8月、「遠野少年少女グローバル体験 in TONO ～まるで国内留学～」の第一回が開催されました。遠野市が2023年度から実施するEnglish・キャラバンをNPO法人遠野エコネットが運営する「遠野森のがっこう」をフィールドに発展させたもので、遠野市主催、企画・運営をNPO法人遠野エコネットが委託事業として担いました。

「遠野森のがっこう」は、市内から車で約40分の早池峰山の南に位置する薬師岳の麓にあります。誰もが自然と共にある時を過ごせる場として2024年にオープンし、多様な自然体験プログラムを開催しています。グローバル体験当日は小学2年生から6年生11名が参加し、「遠野森のがっこう」が普段実施しているプログラムを元にした森遊び、ネイチャーゲーム、おにぎりづくりなどを体験しました。

「楽しみながら学べる異文化体験活動」がコンセプトなので、始まりから終わりまで英語を使います。森を歩いて見つけたものや葉っぱを触った感触を英語で表現することに挑戦したり、おにぎりを作る工程を英語で説明したり、まさに体験しながらの学びです。English キャラバンのスタッフやALT（外国語指導助手）が講師を務め、事前打合せから講師の皆さんも雄大な自然環境での実施に期待に胸を膨らませていたそうです。

きっかけは市が遠野エコネットに声をかけたことです。グローバル人材の育成に取り組む中で、国内留学の専門施設がなくても市内の資源を活かせば、学びの機会を作れるのではと考えました。生涯学習スポーツ課伊藤美智子さんは「森のがっこうの評判を耳にしていたし、協力し合えばできるのではないかとのこちらの想いを受け止めてくれました。参加者からの継続希望の声に応えて続けていきたいです。」と話してくれました。「遠野森のがっこう」運営チームマネージャーの照井菜々さんも「新たな層に森に来てもらう機会になるし、自然はまさに多様な生物が共存する世界なので多文化理解・共生と重なる部分がある」と、感じているそうです。

2025年度の開催も既に決まっており、昨年から更にブラッシュアップした企画を相談するお二人のわくわくした表情が印象的でした。

English・キャラバンとは

遠野市が2023年度から実施している「遊び＋英語」をコンセプトに楽しみながら学べる異文化体験活動。外国人講師や地域の方々が、市内の児童館等を巡回して実施される。遊びを通じて子どもたちの健やかな成長やグローバルな人材育成につなげることを目的としている他、小学生から高校生を対象に実施される市の様々な事業とも連動させ、子どもたちがステップアップしながらグローバルな視点や体験を重ねるための一つのプログラムとなっている。

NPO法人 遠野エコネット

遠野 森のがっこう

遠野の豊かな自然環境を守り次世代へつなげようと2004年に発足し2010年に法人化。自然体験や子どもたちの第三の居場所づくりとして多様なプログラムを行っている。

HP

遠野市 生涯学習スポーツ課

2025年度の遠野少年少女グローバル体験も市内外問わず小学生を対象に開催されます。詳細はホームページに掲載。

HP

事例2

オリジナル木片遊具の共同制作

事例2では、NPO活動交流センターが令和5年度から取り組んでいる「県内NPOと企業等のマッチング支援」での事例をご紹介します。

企業の地域貢献活動をヒアリングしている中で、盛岡市のウチノ建設株式会社から「滝沢市の自社工場で各種無垢材のプレカットなどを行っており、作業過程で出る廃棄木材を利用して地域貢献できないか」との話がありました。そこで、子ども向け木片遊具を寄付することを考えました。サンプル作りを経て、仕上げ加工でNPOとの連携を検討することになり、2025年2月にNPO活動交流センターがNPO法人好望（こうぼう）・恕をおつなぎしました。

好望・恕では、就労継続支援B型事業所を運営しており、利用者の作業の種類や幅を増やしていくことに関心があったことから連携に向けた話がスタートしました。木片遊具のサンプルを見ながら実際に作業を担う方々の状況も確認し、木材カットまでウチノ建設で行い、紙やすりでの仕上げ加工を好望・恕に仕事として依頼する形で共同制作を進めることになりました。

この間、宮古市で保育事業などに取り組むNPO法人輝きの和から、木片遊具への関心があり500枚の注文を受けました。三者のやり取りをNPO活動交流センターもサポートしながら4月から6月まで制作が進められました。

ウチノ建設からは、作業がしやすいように作業台とやすりセットの提供があり、使い方のお手本を見せながら作業の精度を上げていくという交流も経て、しっかり角や側面が面取りされ、子ども達が安心して遊べる品質になったものが7月上旬に無事に納品されました。

ウチノ建設ではこの連携を通じてNPOへの関心が広がる機会となったそうです。地域に根差した活動を心掛けている好望・恕にとっても、新たな地域事業者との連携はその一つになったと感じているそうです。また、加工作業を担当した利用者さんは弱視であるため、担える作業が限られてしまうこともありますが、「自分でもできる仕事があることが嬉しく作業も楽しい」と喜びを伝えてくれました。第2弾の注文も入ってきたようで今後の展開も楽しみです。

木片遊具に大喜びの子供たち

県内NPOと企業等のマッチング支援

地域の実情に応じた様々な連携・協働のネットワークづくりの一環として、NPOと企業の協働に向けたNPOに対する伴走支援や企業等に対するNPOの活動紹介などを行っています。地域貢献に関心のある企業や事業者、また、NPOの双方のニーズをそれぞれ把握しながら具体的な取組やチャレンジにつながるよう取り組んでいます。

NPO法人 好望・恕

障がい者と地域の人が共に暮らせる地域づくりを目指し、就労継続支援B型事業所などを運営。法人名には『前途洋々』『相手を思いやる心』の想いが込められています。

HP

ウチノ建設株式会社

木のぬくもりの家づくり

本物の木にこだわり、設計から製材・施工まで一貫対応。確かな技術と無垢材で、世代を超えて愛される住まいをお届けすることをモットーとした会社です。

HP

認定ＮＰＯ法人取得・更新情報

令和５年度から令和６年度にかけて認定取得・更新したＮＰＯ法人（10 法人）のうち、３法人を紹介します。

認定特定非営利活動法人　日本ヨガ連盟

幼児から高齢者など幅広い階層に対し、ヨガを通じた病気の予防、健康維持増進に関する事業等を実施することにより、社会の福祉に貢献する活動を行っています。

【認定期間】
令和元年 10 月４日
～令和 11 年 10 月３日

日本ヨガ連盟サイト→

認定特定非営利活動法人　岩手県青少年自立支援センター「ポランの広場」

不登校やひきこもりに悩む親子を支えるため、相談事業や居場所の運営などとともに社会的理解向上に向けた広報活動を行っています。

【認定期間】
平成26年12月10日
～令和11年12月９日

岩手県青少年
自立支援センター
「ポランの広場」サイト→

認定特定非営利活動法人　もりねこ

人と猫がしあわせに共存して暮らすことができる地域社会の実現のため、野良猫や捨て猫、飼育放棄された猫の保護や保護された猫の新しいご家族への譲渡、猫の適正飼育などの啓発活動を行っています。

【認定期間】
令和元年12月11日
～令和11年12月10日

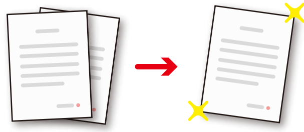
もりねこサイト→

認定 NPO 法人制度に関する相談窓口

岩手県 環境生活部 若者女性協働推進室
認定 NPO 法人専門員（月曜～木曜 8:30 ～ 17:00）
019-629-5199

NPO 法人の各種手続きに関する副本等の提出部数が変わりました！

特定非営利活動法人等の設立の手続等に関する条例施行規則の改正により、令和７年７月１日から、NPO 法人の設立認証を始めとする各種手続きにおける**副本又は写しの提出部数**が**２通から１通に変更**されました。



詳しくは、二次元コード先の県ホームページに掲載している「特定非営利活動法人制度の手引き」をご確認ください。

岩手県
ホームページ→

ボランティア体験今年も始まっています！

人と人をつなぐ、あなたの手から始まるボランティア
2025 ボランティア体験 in いわて

岩手県内各地で、子どもから大人まで、親子でも参加できるボランティア活動を紹介しています。主に高齢者、障がい者、子ども、各種イベントなどに関するボランティア活動です。お好きな方法で、ボランティア活動を探してみてください。

体験期間：令和７年４月１日～令和８年２月28日

検索・参加方法その１　パソコン・スマホから　「ボランティア体験 in いわて」

検索・参加方法その２　社会福祉協議会の窓口に「ボランティア体験 in いわてに参加したい」とご相談ください。

体験例１

保育園の創立記念祭

・コーナーの手伝い
（ゲーム、バザー等）
・園児との交流

募集人員　５人
期日･時間　令和7年10月25日(土)
活動場所　水沢保育園（奥州市）

体験例２

おもちゃ図書館で活動してみよう！

・おもちゃ図書館開館、閉館時の作業
・図書館利用者との交流
・おもちゃの整理、整頓

募集人員　上限なし
期日･時間　令和7年7月26日～令和8年2月28日
活動場所　たばしね学園 おもちゃ図書館（奥州市）

体験例３

老人ホームの環境整備 レクリエーションの補助

・入居者とのコミュニケーション
・レクリエーション活動
・シーツ交換
・車いす掃除

募集人員　１日あたり１～２名
期日･時間　令和7年6月2日～12月26日
活動場所　浮牛の里（北上市）

ボランティア保険について

安心してボランティア活動を続けるために、活動中のケガなどに備えて、まずは保険に加入しましょう！

個人で、ボランティア活動に参加する予定だけど、保険に入っていた方がいいかな？

ボランティアグループで行事を開催する予定だけど、行事参加者のケガに備えたい！

＊ボランティア保険は、**最寄りの社会福祉協議会**で加入できます。
＊加入手続完了日の翌日午前０時から補償開始です。お早めにお申込みを！
＊社会福祉協議会が関わらないイベントでも加入可能です。保険の詳細は、福祉保険サービスホームページをご覧ください。

福祉保険サービス
ホームページ

県内各市町村社会福祉協議会では、福祉教育やボランティアに関するイベントや研修・講座等を、企画・実施しています。（例：キャップハンディ体験、ボランティア養成講座、など）

地域、団体、企業等で、開催を希望する場合は、**最寄りの社会福祉協議会**へご相談ください。

お問合せ
岩手県社会福祉協議会
ボランティア・市民活動センター
TEL:019-637-4483　FAX:019-637-7592

ずっぱりボランティアいわてサイト

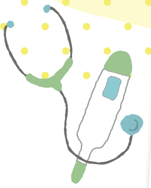
いわての
NPO・ボランティア活動情報誌
PIN ぱいん
2025 vol.1

令和7年8月31日発行　発行：NPO活動交流センター
〒020-0045　岩手県盛岡市盛岡駅西通1-7-1いわて県民情報交流センター「アイーナ」6F
Tel.019-606-1760　Fax 019-606-1765

Interview
ユース世代に聴いてみよう

ユース世代の活動と
インタビューをお届けします

岩手医科大学
「IM²EDiCo（アイメディコ）」



IM²EDiCo（アイメディコ）は、災害・救急医療を学ぶ岩手医科大学の学生が地域とつながり、医療を身近に感じて欲しいとの思いで活動しています。

代表の瀧澤友理さんは、新型コロナウイルス感染症の影響により活動が制限された中で大学１・２年生を過ごしました。しかし、学んだ災害・救急医療を活かす場を作りたい、学生でもできることがあるのではとの思いから、３年生になった2023年４月、当時「東北DMAS（日本災害医学会学生部会東北支部）」に参加していた同大学の学生を誘って６名でこのサークルを立ち上げました。３年目となった現在、メンバーは27名（医学部21名、看護学部６名）まで増え、矢巾町や社会福祉協議会とも連携しながら活動しています。

毎週月曜日の定例会をベースに、地域イベントへの救護班としての参加、町内小学校での防災学習など活動は少しずつ広がり、矢巾町消防団で初の学生消防団員となったアイメディコメンバーもいます。今年は、岩手県立療育センターとの活動も計画しています。

モットーは「全力で楽しむこと」。瀧澤さんは「災害医療や救急医療は敷居が高く思われがちですが、みんなで楽しく学ぶことで距離を縮め、東日本大震災津波を経験した岩手だからこそ、防災教育にもつなげたい」と話してくれました。メンバーの矢野佑樹さんも、「楽しむことを前面にみんな同じ熱量を持って取り組んでいて、アイメディコが無い学生生活は考えられない」そうです。2人の溢れる笑顔から、地域への想いと、学業を含めて多忙な中でもアイメディコを通して充実した学生生活につながっていることが伝わってきました。

岩手医科大学
IM²EDiCo（アイメディコ）

活動の詳細やお問合せは
こちらから！！

編集後記

2025年度のPINは「ユース世代に聴いてみよう！」が裏表紙にお引越しました。限られたスペースと文字数の中でも、団体や取組の魅力を可能な限りお伝えしていきたいとの思いから"ちょこっとリニューアル"です。

「活動から生まれたもの紹介」も適宜盛り込んでいきたいと思っていますので、素敵な情報があればぜひお寄せください。

今年度もみなさまに楽しく読んでいただけるように、第3号まで制作を進めていきたいと思います。

（N.S）

PIN（ぱいん）は年3回、各2000部発行しています。